

私立大 定員割れ大学が半数以上を占める

日本私立学校振興・共済事業団が2023年度の私立大学・短期大学等の入学志願動向の調査結果を発表した。大学・短期大学ともに志願者数・合格者数は減少した。18歳人口により私立大・短期大入試は縮小局面に入ったとみる。

以下、調査結果から浮かび上がった2023年度入試の特徴を振り返る。

私立大入試の状況

志願者は4年連続減少、合格者も減少に転じる

2023年度の私立大の延べ志願者数は3,713,827人（前年比97.2%）と4年連続で減少した<図表1>。一方、入学定員はこの間も増加が続いていることから、志願倍率（志願者数÷入学定員）は7.4倍にダウンした。

合格者数は1,494,758人（前年比99.1%）とこちらもやや減少した。18歳人口の減少が続く近年、各大学は入学者を確保するため、多くの合格者を出しており、合格者数は2019年度から増加が続いていたが、ついに今春入試で減少に転じた。

入学者数も500,599人と減少した。ただ、推薦等入学者数は前年から約7千人増加しており、一般選抜での入学者数が大きく減少していることがわかる。

<図表1> 私立大入試の実施状況

年度	大学数	入学定員	志願者数	合格者数	入学者数	推薦者等入学者数	志願倍率
14	578	460,251	3,464,428	1,195,738	477,630	217,065	7.5
15	579	463,697	3,513,499	1,241,262	487,064	222,788	7.6
16	577	467,494	3,629,273	1,245,865	488,210	221,220	7.8
17	581	477,662	3,882,572	1,238,559	499,677	228,721	8.1
18	582	484,986	4,158,500	1,211,515	497,778	232,606	8.6
19	587	487,065	4,424,451	1,250,195	500,085	242,493	9.1
20	593	491,012	4,368,215	1,348,517	503,830	255,118	8.9
21	597	495,162	3,834,860	1,437,909	494,208	253,740	7.7
22	598	497,939	3,822,486	1,508,761	502,194	259,428	7.7
23	600	502,635	3,713,827	1,494,758	500,599	266,332	7.4

※日本私立学校振興・共済事業団資料より（図表2以降も同様）
※「推薦等入学者数」は「入学者数」の内数

大規模大は志願者・合格者ともに増加

<図表2>は大学規模別でみた入試の状況である。私立大全体の志願者、合格者は減少したが、収容定員8千人以上の大規模大ではそれぞれ増加した。大規模大では入学者数も増加したため、入学定員充足率は昨年に続き104%となった。一方、小規模大、中規模大では志願者、合格者が大きく減少した。なかでも小規模大は入学定員充足率が93%と、入学者の確保が厳しい状況であることが分かる。

<図表3>は大学規模別でみた合格者数の変化を、2019年度の合格者数を基準にみたものである。大規模大では合格者の増加が続いており、今春の合格者数は5年前から3割以上増加した。中規模大も今春の合格者数は5年前に比べ2割近く増加しており、依然として合格しやすい状況が続いている。小

規模大の合格者は横ばいが続いていたが、今春2万人以上減少したことで5年前の合格者数を下回った。

<図表2> 大学規模別 私立大入試の実施状況

①小規模大（収容定員4,000人未満）

年度	入学定員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数	歩留率	充足率
19	158,503	742,373	715,734	327,434	167,425	51%	106%
20	159,244	781,119	751,079	338,461	167,543	50%	105%
21	160,310	662,004	634,075	338,232	157,950	47%	99%
22	162,500	627,592	600,143	341,120	155,240	46%	96%
23	164,394	571,771	547,207	319,750	152,264	48%	93%

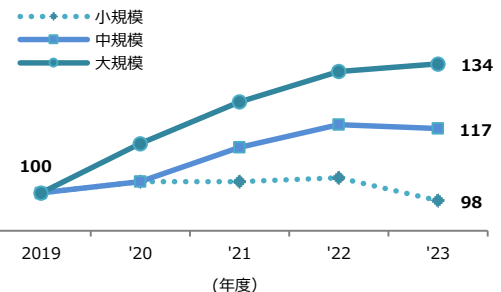
②中規模大（収容定員4,000人以上8,000人未満）

年度	入学定員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数	歩留率	充足率
19	127,423	1,201,274	1,162,929	350,369	133,138	38%	104%
20	125,393	1,131,225	1,093,852	362,320	131,021	36%	104%
21	127,570	994,624	958,235	392,570	129,275	33%	101%
22	127,203	979,272	941,730	414,625	130,606	31%	103%
23	126,545	924,987	889,703	408,320	129,048	32%	102%

③大規模大（収容定員8,000人以上）

年度	入学定員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数	歩留率	充足率
19	201,139	2,480,804	2,367,125	572,392	199,522	35%	99%
20	206,375	2,455,871	2,329,872	647,736	205,266	32%	99%
21	207,282	2,178,232	2,071,650	707,107	206,983	29%	100%
22	208,236	2,215,622	2,101,122	753,016	216,348	29%	104%
23	211,696	2,217,069	2,110,398	766,688	219,287	29%	104%

<図表3> 大学規模別 合格者数の推移



※2019年度入試の合格者数を100とした場合の変化

学部系統別の状況

<図表4>は学部系統別の入試の状況である。今春は「保健系」や「家政学」など比較的女子比率が高い学部系統で定員充足率が大きく落ち込んだ。一方、「理・工学系」や「農学系」、「社会科学系」は前年に続き定員充足率が100%を超えた。女子の動向の変化が影響しているとみられる。

合格率（合格者数÷受験者数）をみると、競争緩和の影響で軒並みアップするなか、「農学系」の合格率は前年の46%から4ポイントダウンし42%となった。今春の人気系統で志願者増が要因である。

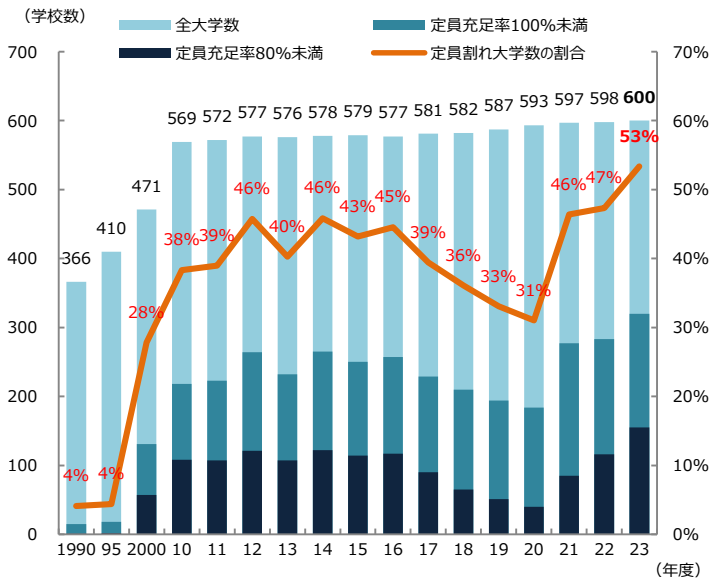
＜図表4＞ 私立大 学部系統別の状況

系統	入学定員	志願者数	合格者数	入学者数	志願倍率	充足率
医学	4,153	102,448	9,455	4,171	24.7	100%
歯学	1,995	7,423	3,875	1,566	3.7	78%
薬学	11,276	74,627	32,753	10,674	6.6	95%
保健系	40,720	171,927	80,009	39,414	4.2	97%
理・工学系	60,899	745,078	293,618	62,044	12.2	102%
農学系	8,850	82,069	32,361	9,144	9.3	103%
人文科学系	68,526	474,386	206,138	65,979	6.9	96%
社会科学系	174,614	1,355,137	519,139	179,337	7.8	103%
家政学	15,113	46,651	26,088	13,452	3.1	89%
教育学	18,708	87,385	42,230	17,094	4.7	91%
体育学	5,190	10,413	7,102	5,191	2.0	100%
芸術系	14,448	60,391	24,676	15,217	4.2	105%
その他	78,143	495,892	217,314	77,316	6.3	99%

私立大全体の半数以上が定員割れの状況

＜図表5＞は私立大の定員割れ学校数の推移である。今春の定員割れ大学の割合は53.3%と過去最高値を更新、全体の半数以上が定員割れという状況となった。人口減による志願者数の減少が進むなか、私立大全体の入学定員は増加を続けていることが大きく影響している。定員割れといっても、充足率90%以上の約100大学もこの中に含まれる。定員充足率が80%未満の大学は前年の116校から155校にまで増加、全体の4分の1に達している。定員割れが深刻な大学は助成金の減額、修学支援制度の対象外になるなど、厳しい環境におかれることになる。政府は令和6年度から5年間を「集中改革期間」と位置づけ、大学自らの改革を後押しする計画だ。

＜図表5＞ 私立大 定員割れ学校数の推移



私立短期大入試の状況

志願者は1割以上減少、志願倍率は1倍を切る

2023年度の私立短期大の延べ志願者数は45,989人（前年比86.1%）と10年連続で減少した＜図表6＞。延べ志願者数が入学定員を下回り、志願倍率がついに1倍を切ることとなった。合格者数は41,779人（前年比87.0%）と志願者の9割以上が合格している。私立大とは異なり、大学数および入学定員も減少しており、短期大全体が急速に縮小している。来春以降も募集停止、または4年制大への転換を予定している短期大がみられており、今後も縮小傾向は続くだろう。

＜図表7＞は私立短期大の定員割れ学校数の推移である。今春の定員割れ大学の割合は92.0%と、ほとんどの短期大で定員が割れる深刻な状況となっている。私立大の競争緩和などにより、短期大ではなく4年制の大学を志望する受験生が増加しており、私立大以上に入学者の確保が厳しい様子が見られる。

＜図表6＞ 私立短期大入試の状況

年度	大学数	入学定員	志願者数	合格者数	入学者数	推薦者等入学者数	志願倍率
14	320	64,664	93,377	72,672	58,561	41,077	1.4
15	315	62,464	89,349	71,585	57,951	41,163	1.4
16	311	61,251	83,116	67,381	55,171	40,060	1.4
17	304	59,116	78,338	64,244	53,389	38,012	1.3
18	301	58,161	75,631	61,904	51,214	35,483	1.3
19	297	55,892	72,583	59,527	48,704	33,138	1.3
20	291	53,717	70,019	57,871	46,901	32,075	1.3
21	286	52,242	60,363	53,452	43,132	29,649	1.2
22	279	50,857	53,436	48,014	39,461	27,334	1.1
23	276	48,817	45,989	41,779	35,141	24,236	0.9

＜図表7＞ 私立短期大 定員割れ学校数の推移

